

其の九 千葉県小湊寄浦港出船のマルイカ マルイカ釣りが面白い理由。

船釣りの作法

釣	技
技	食

【連載】※月1掲載

マルイカスツテは35ミリ、クリアー系を中心とした直結6本ツノ

タタいて、止める。最も働くのは穂先かもしれない

マルイカとは小さなケンサキイカの関東方面での呼称。この釣りの歴史はまだ20年ほど、流行して10数年と、それほど古くはない。その黎明期に仕掛けや釣法、道具を研究し遊漁船に広めていた1人が飯田純男さんだ。

「小湊は久しぶりでですね。今日みたいに波があると難しそうですが、楽しんでみたいと思います」

まずは港を出てすぐの小湊沖、水深50〜70メートルを探る。

東風と波の上下動により、マルイカ釣りでは定石とされる「ゼロテンション」を維持するのが難しい。そんなコンディションでも、リアランサーマルイカ82SS155の穂先はタタキ直後に素早く止まるため、ゼロテン状態を作ることができる。

「乗りました」

竿を頭上に持ち上げるように合わせ、フォースマスター201DHのタッチドレイブにより電動巻き合わせを加えると竿にグイッと荷重が加わる。上がってきたのは小さなヤリイカだった。

水深100メートルまで探るものの、マルイカの模様は芳しくない。それでも飯田さんに疲れる様子はなく釣りに集中している。

○飯田純男 週末は海へ通う生粋の東京湾アングラ。主に小さなアタリを取るクロダイヘチ釣り、カワハギ、マルイカ、シロギスなどを得意とする。

